

第3回北海道SDGs推進懇談会 議事概要

1 日 時：平成30年10月22日（月）14：00～16：30（道庁本庁舎7階共用会議室C）

2 出席者：[構成員] 有坂 美紀 大崎 美佳 柏村 章夫 小泉 雅弘 定森 光 清水 誓幸
菅原 亜都子 鈴木 昭徳 野吾 奈穂子 吉中 厚裕

【五十音順、敬称略】

【10名出席】

3 主な発言内容

【(仮称)北海道SDGs推進ビジョン(原案)について】

≪「目次」について≫

- 「2 北海道を取り巻く状況」の「(1) 北海道の現状・課題」の「①生活・安心」、「②経済・産業」、「③人・地域」の各項目については、「健康・福祉」など、それぞれの項目を構成するカテゴリーまで記載した方がよい。

≪「1 ビジョンの基本的な考え方」について≫

- 懇談会構成員の呼びかけで行ったグループ別ワークショップ(女性、アイヌ民族、CSO、ユース、経済)の実施についても、策定までのプロセスのひとつとしてビジョンに明記して欲しい。
- SDGsの要素や意義がより理解されるよう、「SDGsが目指すもの」や「5つのP(People、Planet、Prosperity、Peace、Partnership)」などについても、コラムのような形式でもいいので記載した方がよい。また、「誰一人取り残さない」というSDGsの趣旨についても記載した方がよい。
- SDGsに期待される効果に関して、ビジョン原案の6ページ目「ビジネスチャンスの拡大や企業の持続可能性の向上」において、「企業がSDGsへの取組をアピールすることで、企業イメージの向上」と記載されているが、現段階で持続可能な社会に向けたバランスの良い取組かどうか審査する機能はなく、「SDGsウォッシュ」の懸念もあるので、単に取組をアピールすることを記載するのではなく、「企業がバランスのとれたSDGsの取組を続けることで、企業イメージの向上」といった記載に変えるべき。また、「企業がSDGsに取り組むことで、フェアトレードを取り込んだ持続可能なサプライチェーンが創出され、ビジネスによって貧困や人権の課題を解決することが期待される」などの明記が必要だと思う。また、「ビジネスチャンスの拡大」という表現については、SDGsは既に「ビジネスチャンス」というよりも「企業の責任」だと考える。
- ビジョン原案の7ページ目「経済、社会、環境を巡る広範な取組」において、SDGsに取り組むに当たっては、取組もうとするゴールとそれ以外のゴールとの関連について、「「どちらか」ではなく「どちらも」追求することが重要」と記載されている。相乗効果を生むものもあるのは事実だが、トレードオフの関係にあるものもあるので、複雑な関係性にあるということを追記した方がよい。

◀ 「2 北海道を取り巻く状況」について ▶

- 「北海道の現状・課題」については、17のゴールごとに現状・課題を整理したものを追加することで、世界の目標に対して、北海道がどのような状況にあるのかが分かりやすくなる。
- 「北海道の現状・課題」の記載方法としては、17のゴールごとに整理すると、SDGsの入口としてはわかりやすい面もあるが、実際に何かに着手していく場合は、ビジョン原案のように優先課題を示して、その優先課題を導くデータを示した方が分かりやすいと思う。
- 現状や課題については、世界・日本の状況と北海道の状況とを比較して記載すると、優先課題を設定するに至った経緯を丁寧に説明できる。
- 「北海道の現状・課題」については、ゴールごとに索引が出来るものがあればよい。
- 「健康・福祉」といったカテゴリーごとにそれぞれ追加して欲しいゴールや記載内容、削除して欲しい内容等があり、別紙としてまとめたので、今後のビジョンの策定作業にあたり修正して欲しい。
- 健康・福祉の現状・課題を表す指標に関し、「生活保護世帯数」については、「世帯数」そのものよりも、なぜ北海道が全国と比べて高いのかを書くべき。「ひとり親の世帯」についても、数が多いことが問題ではなく、貧困な状態に陥りがちだということが問題であり、その原因を現状・課題として記載すべき。また、課題を記載するにあたり、北海道にとっての「貧困」とはどのような人たちのことなのかということをしかりと定義した方がよい。
- 再生可能エネルギーを進めて行くことは重要ではあるが、メガソーラーやバイオマスエネルギーの発電施設の建設が相次いでいることを単に肯定的に捉えるのではなく、自然破壊や健康被害の問題とも絡むため、その進め方にも注意が必要。
- アイヌ文化を価値や強みとしても捉えることができるが、北海道の開発の歴史的な経緯も踏まえ、アイヌの人達に深刻な打撃を与えたということをしかりと踏まえるべき。

◀ 「3 北海道のめざす姿と優先課題・対応方向」について ▶

- グループ別ワークショップでの提案や意見をできる限り「めざす姿」の関連する部分に反映するか、別途資料として添付するなどしてビジョンに加えて欲しい。
- ビジョンに掲げている指標だけでは優先課題の解決につながるものとはなっていない。「参考となる指標」や「主な指標」といった位置付けとし、今後、指標を練るプロセスは必要だと思う。
- 指標の目標年度は2030年に設定していくべき。今年度中は難しいと思うが、道としていつまでに提示するか示した方がよい。
- 第1回目の懇談会資料に「SDGs指標と関連性を有すると思われる道の指標」（資料3-2）が提出されているが、世界の目標と道の指標との関連がよくまとまっているので、対応する優先課題の追加など適宜修正した上でビジョンに付けてもらえるとよい。
- 優先課題・対応方向ごとにそれぞれ追加して欲しいゴールや記載内容、削除して欲しい内容等があり、別紙としてまとめたので、今後のビジョンの策定作業にあたり修正して欲しい。
- 農業においては、生産以外のところで女性の活躍が業界全体にいい影響を与えていると感じるので、優先課題Ⅲの「i 持続可能な農林水産業の推進」に関連するSDGsのゴールとして、「ゴール5（ジェンダー）」が入ってもよい。

- 労働安全などの働く人にとっての規格もGAPには含まれており、農業の業界でもいい印象があるように感じているので、優先課題Ⅲの「i 持続可能な農林水産業の推進」の始めの部分にGAPについて記載があってもよい。
- 優先課題Ⅳに「iii 女性が活躍できる社会づくりの推進」とあるが、女性活躍の前提にジェンダー平等があり、また、政府で毎年出している「女性活躍の重点方針」の2018年版で女性活躍推進以前の課題も解決していく旨触れられているので、女性の活躍のみではなく、男女平等参画若しくはジェンダー平等の視点も入れた方がよい。
- 優先課題Ⅴに「iii 国際交流や多文化共生の推進」とあるが、記載されている取組例が多文化共生に偏っているので、国際協力・交流の事例を追加して欲しい。

《「4 ビジョンの推進」について》

- ビジョン策定後に、今後、具体的にどのようにビジョンを見直していくか明記して欲しい。様々な主体別の意見交換会や指標の進捗状況の確認のための意見交換会を年に1回は振興局ごとに開催して欲しい。また、3年後を目処とした「めざす姿」や指標の見直しを行うことを明記して欲しい。
- 今回、グループ別ワークショップを行った、「女性」、「アイヌ民族」、「ユース」、「CSO」はSDGsの各主体に位置付けて欲しい。
- 道主体で作られている既存の各種計画・目標の改定にビジョンやSDGsの考え方をしっかり盛り込み、道庁全体の取組に繋がっていくのがいい。
- 道の取組として、国連のメジャーグループなどのグループとの連携・協働を明記して欲しい。
- ビジョンの推進に当たっては、今回、ワークショップを行ったように、女性も男性も一人一人がこのビジョンを自分の事と考えられるような進め方をして欲しい。
- SDGsそのものの啓発資材は結構出回っているので、SDGsと「ジェンダー」など、テーマごとに焦点を当てた啓発資材が作成できるといい。
- 普及啓発として、行政向けの勉強会の開催や、自治体を支援するための既存の各種補助事業等へのSDGsの要素の反映などを道庁に行なって欲しい。
- データがないと指標は作れないので、データの取り方の支援を自治体に行っていって欲しい。